



諏訪森だより



駅舎・まち・ひとびと

諏訪森に住んでいた人々

大正八年に現在の諏訪ノ森駅が建てられました。その頃から駅周辺に住宅が増えて、昭和初期には多彩な人々が住む住宅地に発展しました。

当時の諏訪森の様子はよくわかりませんが、手元に荒木元秋という方の自叙伝があります。大正元年浜寺諏訪森生まれで、大正十四年に浜寺小学校を卒業されています。お父様は荒木和一さんでそのお屋敷は三光川、紀州街道、南海本線に囲まれて、南は今の近江内科のところまで抜がる広大なお屋敷でした。欧米雑貨の輸入やカナダの生命保険会社の代理店を経営されていました。元秋さんの同級生には高田正男さんのお名前もあります。美乃やさんの先代のご主人です。また、島田太郎さんや銭高善子さんも同窓の親しいお仲間だったそうです。

浜寺小学校を大正八年に卒業した上田安子さんは、上田安子服飾学園の創設者です。お父様の上田貞治郎さんは、写真機材商・写真収集家として知られています。また、大正十年の卒業生に北里董一というお名前があります。お父様の北里一さんは浜寺小学校の旧校歌や昭和小学校の校歌の作詞者で、細菌学者・北里柴三郎博士の遠縁に当たると伝えられています。これらの校歌と浜寺中学校の校歌の作曲者は永井幸次さんで、大阪音楽大学の創設者です。この方は諏訪森在住ではありませんが、女婿の長井斉さんは諏訪森にお住まいで、大阪音大の校長をされていました。関西の合唱界の指導者としても有名な方です。

少し時代が下がって、昭和になると山本富士子さんの名前が出て来ます。諏訪森在任期間は短かったのですが、浜寺小学校の卒業生で、一期下に藤本義一さんが居られます。脚本家の橋田壽賀子さんも諏訪森から泉陽女学校に通学されていました。文藝面では現在は久坂部羊さんの小説が好評です。

実業界は多士済々ですが、福助足袋の辻本家、大和川染

工所の柳原家、金鶴香水現マンダム社長の西村新八郎さん、それから、大きいお屋敷では、大阪アルミニウム製造所の稲田社長邸が知られています。意外なことにトヨタ自動車の第四代社長の中川不器男さんも諏訪森にお住まいでした。大阪商工会議所会頭・久保田鉄工社長の小田原大造さん、政治家で三光汽船社長河本敏夫さんもお住まいでした。その他にダイセル社長の伊藤吉次郎さん、堺化学社長の伊藤道次さんなどが居られました。お名前を列挙できませんが、各種企業のオーナーが沢山お住まいで、諏訪森らしい閑静で奥深いまちのカタチが作られました。

映画「あなた買います」のモデルとして有名だった南海ホークスの穴吹義雄選手は三光松にお住まいを新築されました。南海ホークスでは、その他に、飯田徳治、広瀬叔功選手等がお住まいでした。諏訪森ではありませんが、浜寺中学校の卒業生では、木戸克彦(阪神)、阿野鉦三(巨人)、和田徹(阪神)、現役の白濱裕太(広島)などの選手の名前が出て来ます。また、元南海ホークスの新山滋社長も諏訪森にお住まいでした。その他のスポーツ界ではバレーボールの大松博文監督、スケートでは桜井雄馬・美馬の兄妹が有名です。昭和四十年のシンクロナイズドスイミング日本選手権で優勝した後藤西(通子)さんも、諏訪森の出身でカナダ在住、日本のヘッドコーチ井村雅代の先輩です。

学会では経済学者の森嶋通夫さんもお住まいだったようです。大学の先生は大勢いらっしやいます。

芸能界では、片岡愛之助、池畑慎之介(ピーター)やサキヤハジメさんの名が出ています。古いところでは大阪松竹歌劇団の高月夢子さんのバレー学園がありました。最後に超異色の諏訪森人、一森育郎さん・浜小昭和三十四年卒、パリ在住のジュエリーデザイナー、日本よりもパリで有名な方です。ホームページを検索してご覧ください。

ここに書かれているのは、ごく一部の方です。多くの住民の生き様が、まちに生命を与えているのです。

NPO法人浜寺諏訪森を考える会の日誌

1. 7/26 フェスタ諏訪森 協力参加
2. 7/28 第6回理事会開催
3. 8/24 第7回 理事会開催
4. 9/29 第8回 理事会開催
5. 10/27 第9回 理事会開催

浜寺諏訪森を考える会ホームページ <http://hamadera.jp>

南海本線(堺市)連続立体交差事業

駅舎の保存活用事業

駅舎の保存活用事業は、予定表では平成30年12月から開始されます。まだまだ先の話ではありますが、そんなに先の話でもありません。

平成20年8月に「浜寺公園駅及び諏訪ノ森駅 駅舎保存活用構想」が策定されました。その中で、諏訪ノ森駅駅舎について、

1. 次世代へ文化財的価値が継承出来るような保存活用方策とする。
2. 保存場所は、新駅と離して配置する。
3. 活用については、来場者が集い・憩いの場とし、施設運営については、市民や民間活力を活かす。

ということが示されています。

駅舎が仮移転されてから新駅が完成し、旧駅舎を最終設置場所に戻すまでに10年ほどの期間があります。この期間の保存活用については、懇話会では議論の対象になって居ませんでした。

まず、この期間の駅舎の所有者は南海電鉄だということです。そこで、堺市がこの駅舎を借り受けて、保

存活用事業を実施することになります。全事業が完成する平成40年になってからは、駅舎の所有者は堺市になります。このように駅舎の所有関係が時期によって変わります。

仮活用時の堺市の駅舎運営窓口は、まだ明確にはなって居ませんが、多分、連続立体推進課になると思われます。また、保存活用に必要な資金の出所も決まっていますが、これも連続立体交差事業の予算に組み込まれることになる様です。

駅舎保存活用構想では、施設の運営について、市民や民間活力を利用するとうたわれていますが、それに必要な資金計画については、なにも決まって居ません。

例えば、カフェを開業するとしたときに、そのための設備資金はどうしたらよいかというようなことも、これから決めて行くことになります。

また、仮活用の際の内装と本格活用の際の内装とは同じなのか、あるいは、とりあえず移設だけして、そのまま活用をすることになるのかなど、いろいろと決めないといけない問題があります。

連続立体交差事業の現場から

諏訪ノ森駅の上り線プラットフォームの改造工事は、9月で完了して、プラットフォームの外壁も一部仮設で残す部分を除いて、全部施工されました。古ベンチも適当な間隔で並べられています。駅名表示板も整備されました。

プラットフォームの中は以前よりは狭くなりましたが、それほど危険な感じではありません。11月の中旬から1月の下旬にかけて、南端の三光川のところまでの工事が予定されています。これが完成すると、上りプラットフォームの工事は一段落します。

壁の裏側の工事は、前回にお見せした写真とは余り変わっていませんが、古いコンクリートの部分が完全に取っ払われています。右下の写真は、三光川付近のプラットフォームで、この付近の旧構の撤去と路床の整備が行われています。

駅の東では、商店街の一部の取り壊しが始まりました。北角にあった大和屋さんのお店や、セイビカメラさん、マツヒサさんのあった空家が取り壊されて更地になります。

浜寺公園の駅前では仮駅舎の建設が進んでいます。この駅はプラットフォームが地下道でつながっていますので、仮駅舎から、今の地下道へ通じる新しい地下道がもう完成しています。諏訪ノ森駅の仮駅舎も近々始められます。



ミステリー 蓮如水を追いかける

浜寺諏訪森町西3丁256番地にコート諏訪森というマンションがあります。この場所には古くからお屋敷がありました。そのお屋敷の跡地にマンションが建てられたのは平成8年でした。

まだお屋敷があった頃には、そのお屋敷の庭に井戸が有り、その井戸のそばに蓮如水と書かれた石碑が建っていたそうです。井戸の上部は石造りで35個の石が使われていたそうです。

マンションを建てるときに、この井戸は埋められて、35個あった石の内17個は大阪のお寺に納められ、残りの18個は船尾の元立寺で保管されています。碑はマンションの入り口近くに移設されました。

蓮如というのは蓮如上人のことで、時代は室町時代に遡ります。蓮如上人は、法然上人の弟子である親鸞上人の教えにしたがう浄土真宗の僧で、本願寺派の中興の祖と言われています。蓮如上人は諸国に布教の旅に出るときに、各地で、ここを掘れば良い水が手に入ると言って鑿井を勧めたという話がが残っています。多分、この場所でも蓮如上人の教えで井戸が掘られたのでしょう。

蓮如水の石碑が移された場所は、丁度、南海本線連続立体交差事業の仮線敷設場所になっていて、工事期間中は堺市が借地することになっています。そこで、この石碑については土地の所有者が撤去することになり、昨年8月か9月にお祓いをして処分したということが判りました。

石碑が無くなったことに気付いてから、当会の名探偵古田一さんの探索が始まりました。お屋敷に住んでおられた方のお話を伺い、その後のマンションの所有者や管理会社のお話、石碑が建っていた土地の資料などを克明に調べました。



船尾の元立寺では、井戸の石がそのまま保管されていることを検分して、お住職さんのお話も聞いてきました。

さて、この石碑は今どこにあるのでしょうか。処分したということですが、大きな石碑ですから、どこかに残されている可能性もあります。浜寺校区文化会館の前にある「栄通」の道路標識も一度撤去されて廃棄物処理場にあったのを見つけてきて、三光会館のところに保管されていました。

蓮如上人が堺・泉州で布教されたのは1480年代で、その頃に蓮如水の井戸が掘られたのでしょう。この石碑が見つかるればもう少し詳しい史実も判るかも知れません。江戸時代には三光橋のもとに三光茶屋があったそうですが、その三光茶屋の場所とこの石碑があった場所は100メートルほどしか離れていませんから、蓮如水は紀州街道を往来する旅人達ののどを潤したのではないのでしょうか。まだまだ石碑を求めての探索は続きます。

石碑の写真は岸村伸一さんが2013.5.27に撮影されたものです。現在はこの石碑が撤去されて、その跡に新しいフェンスが設置され、手前は駐輪場になっています。

右下の写真は「続・船尾のあゆみ」に掲載されている蓮如水の井戸の石積みです。

左下の写真は元立寺に保存されている石の一部です。篤志家が、そのうちの二つを利用して石碑に仕立てられました。かなり大きな石に見えますが、このような石を35個積み上げて、井戸枠にしていたそうです。



事業案内

クリスマス イルミネーション 2015

日時： - 12月12日(土) 19:00 ~ 21:00

場所： - 諏訪ノ森駅前イオンタウン諏訪森東側

雨天の時は三光会館で作品の展示を行います。

毎年、諏訪ノ森駅前で開催している「クリスマスイルミネーション」を開催します。今年は、地元出身の新進アーティスト 園川絢也さんのワークショップをご紹介します。そこでは「地域の園児によるアート作品」が主役を演じます。

園川さんは諏訪森にお住まいで、浜寺小学校、浜寺南中学校出身です。高校から大学までアーティストの道を学んで、「京展」「堺市展」等に入選し、堺市の新進アーティストとして活躍されています。

ご協力頂く保育園と幼稚園：

あいあい浜寺中央保育園、諏訪森幼稚園、
浜寺太陽幼稚園、船尾幼稚園 (五十音順)

11月の末に、各園でワークショップを開催し、園川さんが園児たちと浜寺の歴史やクリスマスなどのお話をしながら、大きな布に絵を描いたり、小さな作品を作ったりします。

登録有形文化財である諏訪ノ森駅舎のステンドグラスや、浜寺公園の松のイメージに、クリスマスの風物を織り交ぜたファンタジックな作品は、駅前広場にクリスマスツリーとなって展示されます。

さらに、会場を盛り立てる催し物として、浜寺M-1隊のよさこい、中尾克己さんのクリスマスソング、浜寺の懐かしい映像の投影、写真クラブの作品展示、酒井茂一さんのステンドグラス展示などが賑やかに繰り広げられます。温かいお茶のサービスもあります。

寒さに負けず、今年一年の締めくくりのイベントをお楽しみ頂きたいと願っております。



はまでら4つのや図書館 開館5周年記念講演会

諏訪森在住の作家

久坂部 羊さんのお話

『読書の意外な愉しみ』

平成27年11月29日(日)

13時30分～15時(13時開場)

堺市立浜寺小学校 体育館(駐車場はありません)

入場無料

当日サイン会がありますので
著書をお持ちの方は
ご持参ください



久坂部 羊(くさかべ よう) プロフィール

1955年大阪府生まれ。(堺市立浜寺小学校65期生)
大阪大学医学部卒。
外科医、麻酔科医、在外公館医務官として勤務。
在宅医療など、高齢者医療に携わりながら、2003年『廃身』でデビュー。
その後の著作で、医師会、医療過誤、安楽死、医療行政、
新型コロナウイルスの問題に切り込んでいる。
小説作品に『破裂』『無痛』『神の手』『芥川症』など、
評論書に『日本人の死に時』『医療幻想』など多数。
2014年、末期がん患者と医師の苦悩を描いた『悪医』で
第3回日本医療小説大賞を受賞。

著書のドラマ化決定！！

NHK総合 土曜ドラマ
『破裂』
平成27年10月10日(土)
22時～ 全7回

【出演】椎名桔平 滝藤賢一
仲代達矢 ほか

フジテレビ系全国ネット
連続ドラマ
『無痛～診える眼～』
平成27年10月
毎水曜日22時～

【出演】西嶋秀俊 伊藤淳史
伊藤英明 ほか

主催

NPO法人 はまでら4つのや図書館

後援

堺市教育委員会
社会福祉法人 堺市社会福祉協議会
浜寺校区自治連合会
NPO法人 浜寺諏訪森を考える会

問い合わせ先

NPO法人はまでら4つのや図書館(末吉)
TEL 090-3033-7078
E-mail paix@sakai.zaqq.ne.jp